

三溪園でのイベント実施報告

当会としてのいわゆる“出前教室”の一環、第2回「クイズで学ぶ 三溪園、原富太郎と横浜」を、三溪園と共催で2015年5月3日（日）～5日（火・祝）に実施しました。その結果速報が報告されました。

- ・クイズ問題パンフ配布数： 合計3,457部
- ・解説文配布数： 合計1,734部
- ・缶バッジ配布数： 合計1,500個（各日、先着500名）
- ・開催に関わった会員数： 各日午前・午後とも、平均10名づつ

開催日数を昨年より短縮しましたが、晴天が続いて来園者も多く、回答者への缶バッジが予定より早く配布終了するなど、盛り上がりを見せ好評でした。このイベントが恒例行事として認知され、定着するよう、今後も引き続き取り組んでいく予定です。

横浜学公開講座報告

関東学院大学と横浜ウォーカーによる特別公開講座「横浜学」の第11回講座「横浜と原三溪」が、2月15日（日）に開催され、当会の廣島亨会長と漢詩分科会の鄧捷先生が講師として登壇しました。

今回の例会では、その録画を入手し当日参加できなかった会員への報告として、それを上映しました。

私人原三溪の内面に迫ることは、「横浜と原三溪」を学ぶ上で、重要なプロセスです。

「三溪の漢詩を読み解く重要性」「その研究部会の様子」「漢詩からみえる三溪の人生観や横浜への思い」「理想郷としての三溪園」などが取り上げられ、三溪の漢詩作品を題材にして、具体的説明がなされました。

今までどこにも前例をみない「漢詩からの探求活動」を、スクリーンを通して、皆で確認しました。



当会として『原三溪翁伝』を読み解く中で、原三溪の公的人物像に触れる研究を展開してきました。

加えて分科会活動として、『三溪集』の漢詩を読み解く中で、私人としての三溪の内面に触れる研究活動を展開し、今回の公開講座に到りました。

今後は、『三溪画集』も研究対象として取り組み、漢詩と共に三溪画からも、三溪像に迫っていきたいと思っています。